

エクオールに期待できる健康効果のこれから

日本人の体になじんだ大豆に由来し、幅広い世代の人に使用できる健康成分として、エクオールの研究は現在も進められています。

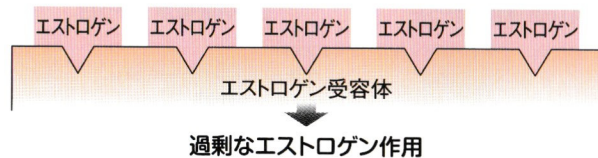
なかでも、乳がん抑制にはたらくことが期待される「抗エストロゲン作用」や、男性の病気に多く関係する「抗アンドロゲン作用」については、今後も適切に行われた実証研究のもとに、私たちの健康に役立つデータが待たれるところです。

女性の病気と抗エストロゲン作用

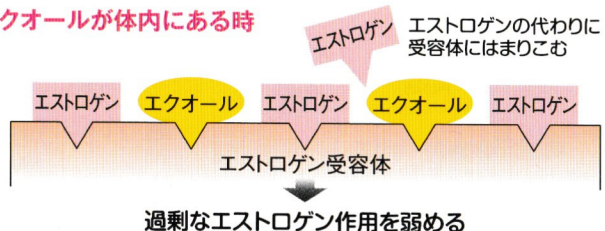
乳房にある乳管という器官は、エストロゲンの影響を受けやすいため、エストロゲンは乳がんリスクに関わっているとされています。

エクオールの大きな特徴は、エストロゲン様作用とともに過剰なエストロゲンののはたらきを抑える「抗エストロゲン作用」を持つことです。そこで、エクオールは乳管などにおける過剰なエストロゲンを抑え、乳がんのリスクを下げる可能性が期待されています。

エクオールを体内でつukれない時

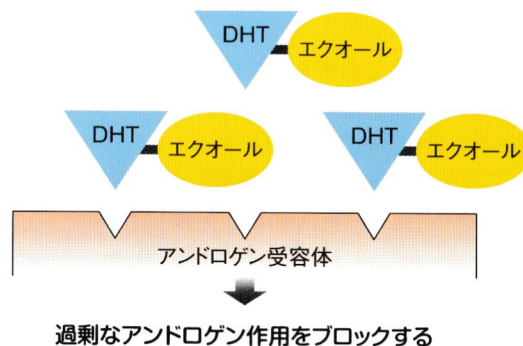


エクオールが体内にある時



男性の病気と抗アンドロゲン作用

前立腺がんや男性に起こりやすい毛髪の脱毛現象は、アンドロゲンの過剰な作用が影響するとされています。そこで、エクオールの「抗アンドロゲン作用」がよいはたらきをすると期待されています。



エクオールがDHT（ジヒドロテストステロン）と結合することにより、DHTが受容体にはまりこむことができない

※DHTはテストステロンの活性体であり、その活性はテストステロンの500倍と言われています。

アンドロゲンとは？

副腎や性腺（精巣や卵巣など）で作られる男性ホルモン全般を指し、テストステロンやアンドロステンジオンなどもその一つです。女性の体にも微量なアンドロゲンが存在します。

エクオールとHRT（ホルモン補充療法）

女性の更年期障害や骨粗しょう症（骨量減少）の治療薬として、HRT（ホルモン補充療法）が行われていますが、乳がん術後、脳血管障害、血栓症などの既往のある人、子宮出血や乳房の張りなどのマイナートラブルを強く感じる人、または年齢によっても、HRTの恩恵を受けられないことがあります。

このようなときに、エストロゲン様作用を持つエクオールを、代替療法として使うことが期待されています。

